

## ●スピアフィッシングが楽しめるフィールド



フィールドを選ぶにあたっては、まずルール上、問題がないかどうか確認することが大切。ただし漁業調整規則で問題がないとされている地域・漁法でも、ローカルルールとして認められないケースはある。理想は、スピアフィッシングを気兼ねなく楽しめる場所を経験者に教えてもらい、可能であれば同行してもらうことだ。現場では、海の状態を観察する。波が荒かったり、潮の流れが速かったりするときは、水深にかかわらず危険度が高いので、決して海に入らないこと。徐々に自分のスキルを高め、フィールドを広げていこう。ビギナーなら、足が立つ程度の浅場でも、十分に楽しめるはずだ。

面利用の基本的ルール」には、「都道府県漁業調整規則で定められている遊漁で使用できる漁具」が明記されている。潜水器(タンク)や水中銃(スピアガン)の使用は全国的に許可されていないが、素潜りで、ヤス(手鉈)を使った捕獲は、日中であれば意外といいほど多くの都府県で許可されていることが分かる。ただし、漁業調整規則で認められていても、ローカルルールのレベルでは、後述する手鉈のゴムや、チョッキ鉈などを許可しないケースがあることは覚えておこう。

つぎに、アワビやサザエ、イセエビ、ウニ、タコなど、漁業権をもたない者は捕獲できない魚介類があることに注意する。さらに、地域によっては捕獲している魚のサイズが決められていることもあるので、事前に確認が必要だ。

### マナーを守ることが大切

ルールさえ守れば何も問題は起きないかという、そうとはいいい切れぬ。もっとも起こりやすく、同時に避けなければならぬトラブルは、密漁者と間違われることだ。スピアフィッシングをひとつのスポーツ、あるいは遊びとして認識している人は、決して多くない。そのため、ウエットスーツを着て潜っているだけで、密漁者と間違われる危険性は高いのが実情だ。

誤解されたときに冷静に対応するのはもちろんのことだが、それ以前に、ポイントに通って地元漁師や住民とコミュニケーションをとっておくことが、こうしたトラ

ブルを避ける一番の方策。たとえ密漁者と間違われなくとも、コミュニケーションをとらず、好き勝手に遊んでいると、地元の人たちから反感を買う可能性もある。これは、釣りでも同じことがいえるはずだ。

### ポイントを選ぶ

釣りの経験が長ければ、魚がそこに棲息しているかどうかを想定するのは、決して難しくないだろう。たとえば、潮通しがよく、対象魚のエサとなる生物が多いところは、釣りでもスピアフィッシングでも好ポイントになる。

ただし、スピアフィッシングでは、釣りと比べて探れる水深に限りがある。ベテランのなかには、水深20mでも平気で潜る人がいるが、深い場所では、体に掛かってくる水圧とともに、ストレスが増え、息こらえの技術も必要になってくるのだ。ビギナーは浅いところから始め、3m、5m、8mといった具合に、徐々に深く潜れるようになる。

ただし、浅ければ安全というわけではない。とくに潮の流れが速いところや、強い波が打ち寄せている場所は危険度が高い。また、波穏やかな湾内でも、小型船などの行き来が多いところは、接触事故が起こりやすいので、後述する「フロート」で自分の存在をアピールすることが必須。あまりに船が多いところは避けるほうが無難だ。

エントリー(入水)とエキジット(出水)がしやすいかどうか、重要なチェック事項。砂浜、磯、あるいはボートなど、エン

トリー場所はさまざまだが、ビギナーは波が穏やかな砂浜やゴロタ浜など、エントリーが容易な場所を選ぼう。ただし、そのときの状況だけでなく、周囲の地形などを見て、波などの影響を受けづらい場所を選ばないと、泳いでいる間に海が荒れてエキジットに困難を伴うことがある。

もちろん、こうして選んだフィールドでも、実際に潜ってみないと魚がいるかどうかは分からない。逆に、岸からでは変化に乏しいように見えても、潜ってみると沈み根が点在していたというケースもある。気になるポイントがあれば、一度、潜ってみるのがベストだ。

もっとも、ビギナーにとっては、ルールやマナーの点も含め、ポイント選びは決して簡単なことではない。まずは経験者に同

### ●愛好者の団体を探そう



スピアフィッシングの愛好者団体は、インターネットなどで検索することができる。小島氏が主宰する「チーム・サバニ」(<http://teamsabani.com/>)は、30名ほどの会員がいる団体。会員以外でも、さまざまな質問に対応してくれる。